●HWモデルのパラメータ

* 特徴
  + 2020年３月の値が上昇
  + 2020年12月にかけて下落
  + 2021年3月に上昇
* 要因
  + 2021年3月に上昇

●為替IV

[1]

米国では今年2月ごろより10年債券の金利が上昇している．

[2]

これにより，日米金利差が拡大し為替レートの値が上昇している．

[3]

原資産価格が上昇することでオプションの一般理論によりインプライドボラティリティが下がったと考えられる．

●リスク性資産

[1]

モデルIVの推移を確認するために，FT6月末算出値からFT3月末算出値を引いた値が以下の表の通りである．新興国債券指数及び東証リート指数を除いて3年から5年のIVと６年以降のIVでは３月末算出値と６月末算出値の大小関係が逆転していることがわかる．

＜＜モデルＩＶの推移（6月末-3月末）＞＞

一方で市場IVの推移は以下の通りであり，大小関係の逆転は起きていない．

[2]

モデルIVの差分，市場IVの差分の年限方向の推移をグラフにすると以下通りであり，両者の水準は異なるものの，推移の傾向は似たような特徴を持つ．モデルIVは市場IVから算出される価格とモデルIVから算出される価格の差が小さくなるように決められる．したがって，差分の推移の傾向が似たような特徴を持つことはこのロジックからも示唆される．したがって，モデルIVの大小関係の逆転現象は市場IVの差分の推移において，５年～６年にかけて急に差分の値が上昇している事が要因であると考えられる．

<<モデルＩＶの推移グラフ>>

<<市場IVの推移グラフ>>

[3]市場IVが５年から６年にかけて急上昇する要因は株式IVの分析をした資料を参照．概要としては，WTW９月末のIV  
が５年～6年にかけて減少する傾向にあるのに対し，WTW3月末のIVが5年～6年にかけて上昇する傾向があるため，これらのIVを使用して計算されるFT3月末とFT６月末のIVも同様の傾向を示し，差分が拡大する．

＜＜リンク＞＞